

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372700413		
法人名	医療法人 福嶋医院		
事業所名	グループホームいるかの家		
所在地	岡山県浅口市寄島町16089-16		
自己評価作成日	平成22年3月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 高齢者・障害者生活支援センター		
所在地	岡山県岡山市北区松尾 209-1		
訪問調査日	平成22年3月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1ユニットに玄関、食堂が2ヶ所あり、1ユニットを4人と5人に分けることで、より家庭的な環境作りが可能である。
 私たちは利用者が介護される一方的な立場にならないように、共に暮らす家族のように接し、黒子として、さりげなく支えるようにしている。利用者に主体性を持って生活して頂く為に、自ら行動したくなるような声かけをしたり、環境整備に努めている。
 また、運営母体が医療法人であり、多職種との連携を図ることができるため、利用者の状態に応じた個別ケアが可能である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

和風のほのぼのとした温もりのある、木造平屋建てグループホームで、一軒を2つに分けて、玄関、リビング、食堂があり、昔と同じような家庭的な雰囲気になっており、ひとつの食卓で4~5人、食事や団らん出来るように工夫しています。
 理念に添って入居されている方々に対して、安心と尊厳のある生活を営むことを支援している。防災設備についても(火災通報装置、スプリンクラー等)設置しており、避難経路も明確に表示されている、誰がどのようにに避難するかも明記されている。今年度の計画で宗教講座を設けたが利用者、家族、地域の方々から好評をえたとの事です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念「皆に優しく、共に楽しく」を基本理念にノーマライゼーションの街づくりを目指している。朝礼時に理念を唱和し、意識するように努めている。また、グループホーム独自の理念「共に暮らす家族として寄り添いさりげなく支える」を決めて実践している。	基本理念は朝礼時唱和している。グループホームの理念を名鑑の裏に書いている今年度は「さりげなく支える、大きな声はしない、意欲がわくような声掛け」を目標にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している		法人全体の施設のどこかに月一回ボランティアが入っている、その中でお寺の住職の法話があり好評で今後楽しみにしている。(老人会との交流で聴く)隣接施設に託児所があり交流もある夏はイルカ祭り、地域の秋祭り、カキ祭りにも参加し交流有り	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人全体として、いるかの家セミナーを開催するなど、地域の方に向けた講演会を計画実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	1回/2ヶ月のペースで運営推進会議を開催している。会議では、活動報告、感染症について、家族会・旅行計画などの話し合いをした。また、毎月運営推進会議委員皆様にいるか新聞を送っている。	二ヶ月に一回運営推進会議を開催し参加者へ活動報告、感染症、家族会、旅行計画等現在取り組んでいる内容についても報告し意見をもらうようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に、市町村職員に出席して頂き、現状報告をしたり、不明な点があれば随時相談をしている。また、市町村主催の研修会にも積極的に参加するようにしている。	運営推進会議に出席して頂き利用者の暮らしぶりやニーズを伝え、さらに市町村主催の研修会にも積極的に参加し連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は原則しないと決めており、全職員で実践している。検討事例がある場合には、毎月のスタッフ会議で話し合いをしている。	身体拘束は原則しないと決めている。問題が起きれば原因を探りスタッフ会議で話し合いさらに家族に了解をえる必要有れば了解をとるように話し合う 最良の方法を取るよう心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会があれば、出席するようにしている。職員は身体的な虐待だけではなく、精神的な虐待(言葉の虐待)なども起こらないように、グループホーム内の勉強会で定期的に話し合いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会があれば参加しているが、現在グループホームに成年後見人制度を利用している利用者がいない。今後必要な利用者がいれば、随時関係者と話し合いをしていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、管理者が対応をし、資料に沿って説明をしている。また、不明な点がないか疑問点を随時尋ねるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には家族に積極的に話しかけるようにしており、家族の意見を聞けるよう努力をしている。また、不定期ではあるが、アンケートの実施をしており、家族の意見を反映できるように努めている。	ご家族には積極的に話しかえ何事も話し合える様な雰囲気づくりに努力している、アンケート調査により家族旅行等の意見も聴いて運営に反映させてえる。	ご家族に運営に関するアンケートを実施する予定との話をお聞きしました、実施されて運営に反映させてください。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月二回全職員参加の業務会議を開催しており、全職員の意見を反映できるようにしている。また、業務を担当制にしている。管理者の権限だけではなく、担当職員が責任もって出来るような体制作りをしている。	月二回全体会議時には管理者は担当職員の意見を聴き、業務に反映させるようにしている。業務を担当制とし美化、行事、物品管理、会計、栄養管理等それぞれ職員が責任を持ち業務をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を取り入れ、給与・賞与に反映させている。また、必要以上の時間外労働をなくしたり、有給休暇の取得も可能とし、スタッフの体力的・精神的負担を軽減し、働きやすい環境になるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	業務上必要な外部研修に積極的に参加している。スタッフの希望による外部研修への参加も認めている。また、法人内では月一回伝達講習会を開催しており、グループホーム内では、月一回認知症に関する勉強会を開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会を通じて、管理者の集いや、研修会に参加することで、他施設との交流を図るようにしている。最近では機会も減っていることから、今後も積極的に参加しようと思っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には、積極的なコミュニケーションを図り、利用者本人が望んでいること、困っている事などを聞きだしながら、安心して暮らしていただけるように努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時には、家族から今までの生活暦等の情報を聞き、ケアに活かせるように努めている。また、家族の悩みや思いを聞き、その悩みに対しては、早急に解決できるように努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	新入居時には、提携医療機関を受診し、必要なりハビリの導入、医療管理体制を決定している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームの理念にもあるように、私たちは共に暮らす家族として寄り添い、さりげなく支えることに努めている。利用者を介護される一方的な立場にならないように、家事などに、積極的に参加していただくようにしている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の様子を月一回発行しているいるか新聞に手紙を添えて伝えている。また、日常的に変化があれば随時し電話で状況を報告、相談している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望があれば、外出支援も可能にしている。馴染みの美容院へ出掛けたり、近隣の知人と話ができる機会を作っている。	1人ひとりに希望があれば行きつけの美容院や実家に帰り近所の人に逢ったり、スーパー等にも買い物に行きます、花の咲く季節にはひまわり畑、カキツバタ、アッケシ草の見学にも出かけます。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を考え、さくら・さざんか二ヶ所の食堂があるので、それを有効に使い、利用者が穏やかに暮らせるように配慮している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後、他施設に入居している家族については、その後の様子を伺ったりしている。また、亡くなった利用者の家族についても、手紙のやり取り等、交流が続いているケースがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の発言、表情等の変化に気を配り、利用者がどんな気持ちで生活しているのか等、日常の記録を詳細にすることで、適切にアセスメントが出来るように努めている。	利用者の日々の、動作、言葉や、表情を見落とさない様、思いを汲み取る様に努めてる。日常の記録も整理され適切に評価出来るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には、家族から今までの生活歴や家族関係、嗜好などについても、出来る限り詳細な情報をもらうようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方のパターンを把握して、利用者の生活ペースを乱さないようにしている。また、活動的に過ごしていただけのように、主体性を引き出すきっかけ作りに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員の意見を取り入れてアセスメントを行ない、利用者に今必要な適切なプランを作るようにしている。また、介護職だけではなく、医師、看護師、管理栄養士、リハビリ職の意見も取り入れながら、プランを作成している。	担当制を取り入れご本人、家族、他の職員の意見を聞き評価を行い、本人に必要で適切なプランを作成している、さらに医師、看護師、管理栄養士、リハビリ職、の意見を聴きスムーズにプラン作成がなされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は関わったスタッフがそれぞれに詳細に記入することになっている。ケアプランをいつでも見れるように、記録の最初に綴じていて、プランに沿ったケアが出来ているか確認出来るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々に必要なニーズがあれば、今までにない取り組みであっても、柔軟な対応をするようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のスーパーに買い物に出掛けたり、今まで行き慣れた美容院を継続して利用できるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	福嶋医院以外にも、利用者や家族の希望に合わせて、皮膚科受診や婦人科受診をしている。歯科往診もあり、希望者はいつでも受診できるようにしている。	本人、家族が希望するかかりつけ医の医療を適切に受けられるように支援している、家族が付きそうスタッフが付きそう対応をしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置していて、いつでも相談できる体制である。また、福嶋医院看護師との連携も取れている。看護師は、一日の利用者の状況について介護職員に申し送りする時間を作り、全職員で情報を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、グループホームでの生活の情報を提供している。入院後は定期的に状況把握するように努め、家族も交えて今後の方針を話し合うようにしている退院前には、入院先の医療機関と連携を図り、情報収集を行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には、今後グループホームでどのような暮らしを望んでいるのか確認している。また重度化や終末期のあり方については、その状況になる前に、福嶋医院と相談し、看護師又は管理者から家族に相談・連絡する体制を取っている。	重度化、終末期に伴うあり方について入居時に、本人、家族と話し合い確認している。福嶋医院と相談して家族に状況報告し、それに対応できる準備はできている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が緊急時の対応が出来るように、看護師が中心となり、感染症対策や、応急処置法などを毎月の勉強会の中で訓練できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年二回、消防士にも参加してもらい、夜間設定、日中の設定で実施している。事務室には災害時の対応マニュアルを掲示し、常に見ることが出来るようにしている。	年二回消防に参加してもらい昼夜間の設定で訓練を実施している、火災通報器、スプリンクラーも設置している、マニュアルを作成し掲示し目に見えるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の主体性を引き出せるように言葉遣いには気を使い、指示・命令することがないように意識している。全職員で話し合いをしながら、その利用者にとってどのような言葉掛けが安心につながるのか検討している。	指示命令する事が無いように意識し言葉かけが必要な時本人が安心して動作を起こさせるよう、気持ちを大切にさりげないケアに心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しかける時に選択肢を出すことで、希望が叶うようにしたり、スタッフが教えてもらうような場面を作る事で、利用者の自信につなげるようにしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の動きを制止する事がないように、利用者の動きに合わせたさりげない声かけに努めている。集団行動ではなく、個々のペースを大切にしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に、どの洋服を着るか選んでもらったり、希望する利用者はお化粧をしている。また、訪問美容院、地域の美容院等、本人の希望する美容院を利用することができる。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえをしてもらうときには、利用者の能力に応じて、皮むき、包丁、盛り付け、食器洗い等それぞれに配分する事で、自信をなくす事がないように配慮している。	1人ひとりの好みを把握して時には要望のあつたおかずと一緒に作る、能力に応じ皮剥き、盛りつけ食器洗い等を一緒にしている、食事作りを一日の大切な活動の一つにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量が安定しない利用者は、チェック表を使い管理徹底に努めている。また、摂取しやすい食事形態、好みの飲料等、個別に対応している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをしている。必要に応じて磨きなおしたり、助言する事で保清に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を個々に記録し、排泄パターンを知るようにしている。また、入居後は出来る限りおむつ使用を減らし、トイレでの排泄、下着(布パンツ)へ移行するようにすすめている。	ほとんどの方が布パンツ使用している、紙パンツを使用し安心していている人もいる、自立支援に向けさりげない声掛けを実践し、失敗の作戦に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便状況を把握し、朝食後のトイレを習慣にしている。また、個々の状態に応じて牛乳やヨーグルトを提供したり、入浴することで排便につなげている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は希望に合わせて時間や曜日を限定することなく、いつでも入浴出来るようにしている。また、入浴拒否のある利用者には、どのタイミングで誘導すれば、気分良く入れるかをスタッフで検討して保清に努めている。	いつでも入浴出来るようにしている、個々の気持ちを大切にし、毎日入浴したい希望者があれば入ってもらい入浴拒否の人はタイミングを計り声掛けを工夫し気分良く入れるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の希望により、その日その日の状態に合わせて起床時間へも配慮している。また、居室で午睡したり、共有空間で自由にくつろげるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服している薬について、全職員が常に確認出来るように、介護記録のファイル内に薬の情報を綴っている。また、状態変化があればグループホーム看護師、提携医療機関へすぐに報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事仕事へ参加したり、新聞取り、犬の散歩、来客の対応等それぞれに合った役割が持てるように支援している。また、買い物や音楽鑑賞、犬との触れ合い等、個々の楽しみを生活の中に取り入れるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や犬の散歩、隣接施設へ新聞取りを日課にしている。また、個々の希望に合わせて、買い物や美容院に出かけたり、外食も可能にしている。	一人ひとりの希望に添って、買い物、外食に職員と一緒に出かけしています。施設の車で花見、藤見学にもドライブを兼ねて出かけしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の小遣いはまとめて管理している。使用毎に預かり金管理表に記録し、家族の面会時に定期的に報告している。また、希望があれば個々に小遣い程度の金額を自己管理できる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、随時電話を利用することは可能である。昼夜問わず希望者は電話をかけており、家族や知人との交流となっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	さざんか・さくらとニカ所の食堂があり、それぞれに落ち着く空間を考え席を決めたり、利用者同士の相性にも配慮している。また、テレビをつけっぱなしにするのではなく、音楽を流して落ち着く空間づくりをしている。正月飾り、雛飾り、風鈴、生花を飾る等季節を感じられるようにしている。	共用の空間は、室内を適温に保ち、季節に花を飾り懐かしいメロデーも流し、心地よく過ごせる工夫が為されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者のその日その日の気分も見極めながら、さくら・さざんか食堂に誘導している。静かに過ごしたい時にはさざんか食堂、皆と楽しみたい時はさくら居間など、個々に調整している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り使い慣れた家具を持ち込んでもらうようにしている。また、居室は混乱することがないように、家具の配置や壁飾りなど、家族にも相談しながら設置している。	居室には使い慣れた寝具や、鏡台、タンス、畳の部屋、ベットの部屋等、それぞれの、利用者の部屋を工夫し心地よく過ごせるよう配慮し、工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な利用者がいれば、トイレの案内を分かりやすく表示し、居室が分からない利用者には、表札や暖簾をつけたり、居室扉近くにライトを設置して分かりやすくするなど、個々に合わせた目印を付けている。		